

I. 総論

2. 男性骨粗鬆症の疫学と診断

Epidemiology and diagnosis of osteoporosis in men

藤原佐枝子

Saeko Fujiwara(保健センター長, 教授) / 安田女子大学薬学部薬学科

key words

骨折
骨粗鬆症
有病率
発生率
死亡率

わが国の骨粗鬆症人口の約23%, 大腿骨近位部骨折発生数の約21%は男性である。骨折の発生率は男性は女性の半分以下であるが, 年齢とともに増加する。骨折後の死亡率は男性のほうが高いが, 骨折後の死亡リスクは男女ほぼ同じである。

骨粗鬆症の診断基準, 診断手順は男女同様であるが, 男性の骨粗鬆症は続発性の原因に由来することが多く, 性腺機能低下やステロイド使用, 過度の飲酒, 喫煙などの危険因子に注意して, 骨粗鬆症を疑うことが重要である。

はじめに

わが国の平均寿命は, 男性 81.25歳, 女性 87.32歳で, 過去最高を更新している。65歳以上の高齢者人口は, 男性は1,545万人, 女性は2,012万人で, 人口性比は, 女性100に対して男性は76.8となっている。骨粗鬆症は女性に注意が向けられがちであるが, 男性においても高齢になると骨粗鬆症有病率は高くなり, 骨折発生率は高まる。しかし, 男性において実際に診断されている割合は低く, 治療率も低いことが知られている。

一方, 65歳以上の介護が必要になった原因は, 女性では認知症, 次に高齢による衰弱と骨折・転倒が続く, 男性では脳卒中, 認知症, 高齢による衰弱,

骨折・転倒が続く, 骨折・転倒は, 介護の必要となった女性の15.2%, 男性では7.1%を占める (図1)。このような状況から, 男性においても骨粗鬆症, 骨折は注目すべき疾患になっている。

ここでは, 男性の骨粗鬆症の疫学および診断上の注意点などをレビューした。

疫学

1. 骨粗鬆症有病率と骨折発生率

日本骨代謝学会の骨粗鬆症診断基準の腰椎骨密度を用いると骨粗鬆症有病率は, 40歳以上の男性で3.4%, 女性で19.2%, 大腿骨頸部骨密度を用いると男性 12.4%, 女性 26.5%で, 女性に比べると有病率は低い¹⁾。しかし, 骨粗鬆

症有病率は男性においても加齢とともに増加し, 70歳代男性の有病率は約20%となる (図2)¹⁾。

腰椎か大腿骨頸部のいずれかで骨粗鬆症と診断されたものを骨粗鬆症ありとするとわが国の男性の骨粗鬆症人口は300万人で, 骨粗鬆症人口1,280万人の約23%を占める。しかし, 厚生労働省のレセプトデータを用いた日本人40歳以上の骨粗鬆症治療薬の処方割合は, 日本人40歳以上人口の女性は12.8%, 男性は1.8%であることから, 治療率は低いことが推察される²⁾。

50歳以上の大腿骨近位部骨折発生率(/100,000人年)は男性217, 女性567で男女比は1:2.6, 橈骨遠位端骨折は男性82, 女性432, 上腕骨近位骨折は男性26, 女性96で, 男女比はそれぞれ, 1: